

ボランテイヤと私

何かを求めて

◆点字朗読◆

法学部3年 坂口裕美

点字を街で見かけて、意識したことはあるだろうか。よくあるのはトイレ、駅の切符売り場、そして近年では缶ビールなどにも表示が付くようになってきた。点字は視覚障害者が触覚で読む字で、点によって仮名文字と数字を表現する。文字は横2個・縦3個の計6つの点で表されている。



熱心に語る坂口裕美さん

点字朗読サークルで活動

週1コマを点字の勉強にあてる

点字朗読サークルで点字を学び、障害のある人と直接関わり、活動を続けてきているのは法学部3年の坂口裕美さん。

「点字の勉強は、サークルに入ってから始めました」と坂口さん。1年生のときに、週に1コマを点字打ちの時間にして覚えていった。

普通のパソコンでも点字のソフトが入っていれば、決まった6つのキーの押し方によって、点字に変換される。6つの点の組み合わせによって点字では、平仮名、数字、句読点、アルファベット……ほとんどの文字を表すことができる。「お点ちゃん」というソフトを使えば、文節ごとにスペースを空けて点が打ち出され、読みやすいようにもできる。

「サークル内で継続して勉強しているうちに、

点字を覚えられました」と語る坂口さんの指は、いまではキーボード上を軽快に移動していく。

視覚障害者に専門書を朗読
困った!円錐の説明

「1年次では学内に視覚障害者の方がいたので、点字の活動をしていました。朗読をすることも多かったです」

読んで欲しいといわれた本を対面朗読室で朗読した。週に1回、90分を1コマとし、適宜休憩を入れつつ朗読する。サークルのメンバーがシフトを決めて、順繰りに担当した。

「科目履修生の方だったので、ゼミのテーマである専門書が多かったです」。専門用語が続々と出てくる。見慣れなくて読めない用語が登場する度に電子辞書を使って、読み方を調べた。英文を読んでもほしいと頼まれたこともあり、普段読まないような難解な英文を朗読したこともある。

「円錐について説明するときに苦労した」と坂口さんは苦笑する。

「上から見ると丸く、横から見ると三角の形をしているから、それをどうやって伝えようか、理解してもらおうかと、かなり悩みました。その方は生まれたときから目が見えないので、上から見た場合、横から見た場合だなんて想像がつかないです……」

結局は円錐形の立体を作り、実際に触ってもらって、理解してもらった。

ボラで、もの見方変わる 欲しい、学食メニューの点字表示

坂口さんはボランティアをするようになり、もの見方も変わった、という。エレベーターに点字がないときに「どうしてないのだろう？」と疑問に思うようになった。街に出て、ビルによってバリアフリーの設備が整っているところとそうでないところとに、大きな格差があることに気づいた。身近なところでも発見はある。「中大の学食にも点字の表示がないですよ。以前、視覚障害の方と食堂へ行ったときには、メニューを全部読み上げていました」。点字朗読サークルが点字表示をつくらばいいのでは、という記者の提案については、「中大はメニューが多いから」と笑われた。それでも他の大学では、メニューが点字で表記されているところも実際にはある、という。

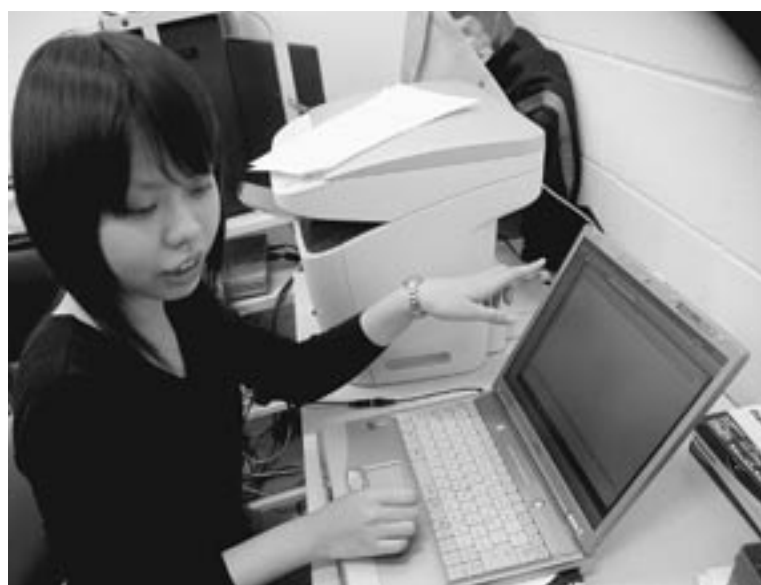
「客観的に伝える力もついたのかな」と坂口さん。「たとえば、道にイヌがいる場合。以前の私であれば『大きなイヌがいる』と言っていたところを、今は『○○センチくらいのイヌがいる』と相手にイメージさせやすいような言い方をするようになりました。正確に伝えなくては、分かってもらえません」

坂口さんは今は、聴覚障害者の授業のサポートをするノートテイクを主に行っている。「彼らにとって大学がもっと心地よいと思える場所であって欲しいという気持ちで、お手伝いをさせても

らっている感じです」という。ただ、新入部員には点字の講習を行い、視覚障害のある学生が入ってきたときに備えている。

街で見かけたら、気軽に声をかけよう 障害者から学んだことを活かす

障害のある人を街で見かけたとき、私たちはどうすればいいのか。記者は、かえって迷惑になり



パソコンで点字を覚えた

「手引きしましょうか」でも、「お手伝いしましょうか」でもいい。生まれつきではなく、途中で失明した人もいる。人それぞれなので、素直に、自然に声をかければ、障害者の方から「こうして欲しい」と要望があるのではないか、という。

ボランティアを続けているうちに、坂口さんは街を見る目が変わっていった。街中で白杖を持った人にすぐ気づくようになった。同時にバリアフリーに対する意識が高くなった気がする。モノレールの各駅にはホームへ落ちないような柵があるが、他の鉄道路線を見渡すとそのような設備のある駅はまだ少ない。街中の点字ブロックには、放置自転車などが陣取って、障害者の妨げになっている。

点字ボランティアに関わるようになって障害のある人の立場に立つようになった坂口さんは、障害者からさまざまなことを学び、それをこれから大いに活かしていく考えだ。

(学生記者 池田園子 法学部3年)